

# CentreCOM® 8724XL/8748XL リリースノート

この度は、CentreCOM 8724XL/8748XL をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。  
した。

このリリースノートは、取扱説明書とコマンドリファレンスの補足や、ご使用前にご理解  
いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。

最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

## 1 ソフトウェアバージョン 2.5.3 pl06 (2.5.3-06)

## 2 重要：2.3.1 pl08 からバージョンアップするときの注意事項

ソフトウェアバージョン 2.3.1 pl08 から 2.5.3 pl06 にバージョンアップすると、最初の再  
起動時には「設定なし」の状態です。2.5.1 pl06 以降から 2.5.3 pl06 へのバージョンアップでは、この問題は起こりません。

バージョンアップ後は、コンソールからログインし、SET CONFIG コマンドで起動時設定  
ファイルを指定しなおした後、本製品を再起動してください。例えば、バージョンアップ前に  
mynet.cfg という設定ファイルを使用していた場合は、次のようにします。

```
SET CONFIG=mynet.cfg
```

```
RESTART SWITCH
```

また、リモートからバージョンアップを行うときは、バージョンアップ後アクセス不能に陥る  
ことを避けるため、次の手順にしたがってください。

1. バージョン 2.3.1 pl08 で動作している本製品にログインします。
2. 次のコマンドを実行し、Boot configuration file: に表示されるファイル名をメモしま  
す。

```
SHOW CONFIG
```

3. 次のコマンドを実行し、現在の設定を boot.cfg に保存します。boot.cfg は、「設定な  
し」で起動したときに自動実行される特殊なファイルです。

```
CREATE CONFIG=boot.cfg
```

4. ログアウトします。
5. 「バージョンアップ手順書」の指示にしたがって、2.5.3 pl06 にバージョンアップしま  
す。
6. バージョン 2.5.3 pl06 で動作している本製品にログインします。
7. 次のコマンドを実行します。xxxx には手順 2 でメモしたファイル名を指定します。

```
SET CONFIG=xxxx
```

8. 手順 3 で作成した boot.cfg を削除します。

```
DELETE FILE=boot.cfg
```

9. 以上です。


### 3 本バージョンで追加された機能

ソフトウェアバージョン 2.5.3 pl04 から 2.5.3 pl06 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。各機能の詳細については、「CentreCOM 8724XL/8748XL コマンドリファレンス 2.5」(Rev.D) をご覧ください。

#### 3.1 ソフトウェアウォッチドッグ


問題検出時にシステムをリポートさせることでハングアップを回避するソフトウェアウォッチドッグ機能が実装されました。これにより、既存のハードウェアウォッチドッグでは検出できなかった論理エラーによるハングアップなどへの耐性が高まりました。

#### 3.2 フラッシュファイルシステムの改良

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「記憶装置とファイルシステム」


フラッシュファイルシステム上に矛盾があった場合、その矛盾を訂正する機能が追加されました。

#### 3.3 Rapid STP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「スパンニングツリープロトコル」

従来のスパンニングツリープロトコル (STP) よりも構成変更時の収束時間が短い Rapid STP (RSTP) (802.1w) に対応しました。デフォルトの動作モードは STANDARD モード (従来の STP) ですが、SET STP コマンドの MODE パラメーターで RAPID モード (RSTP) に切り替え可能です。また、ブリッジ関連パラメーターは SET STP コマンドで、ポート関連パラメーターは SET STP PORT コマンドで変更します。

#### 3.4 SET IP RIP コマンドの NEWIPADDRESS パラメーター

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (RIP)」

既存 RIP インターフェースの設定を変更する SET IP RIP コマンドに、NEWIPADDRESS パラメーターが追加されました。このパラメーターは、IP パラメーター (隣接 RIP ルーターの IP アドレス) の値を変更するときに使います。

#### 3.5 ENABLE/DISABLE IP IGMP ALLGROUP コマンド (AT-FL-03)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP」

IGMP/IGMP Snooping 使用時、All Group への所属可否をポートごとに変更できるようになりました。デフォルトでは、ルーティングプロトコルパケット (RIP、OSPF など) を受信したスイッチポートは All Group 所属となり、同ポートにはすべてのマルチキャストパケットが出力されますが、この動作が望ましくない場合は、DISABLE IP IGMP ALLGROUP コマンドでポートが All Group 所属にならないよう設定を変更できます。本機能はライセンスなしでもご使用になれますが、弊社のサポートを受けるためにはフィーチャーライセンス AT-FL-03 が必要です。

---

### 3.6 MVR (AT-FL-03)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「MVR」

マルチキャスト VLAN という特殊な VLAN を定義して、特定グループ宛でのマルチキャストトラフィックを効率的に配信・制御する MVR (Multicast VLAN Registration) 機能が追加されました。マルチキャスト VLAN は、送信者を接続するソースポートと受信者を接続するレシーバーポートから構成される特殊な VLAN で、あらかじめ設定したグループ宛での IP マルチキャストパケットだけを配信する性質を持ちます。通常のマルチキャストルーティングでは、受信可能なグループをスイッチポートごとに制限することはできませんが、マルチキャスト VLAN では、特定のスイッチポートに対して、あらかじめ設定したグループ宛でのパケットだけを配信できます。本機能はライセンスなしでもご使用になれますが、弊社のサポートを受けるためにはフィーチャーライセンス AT-FL-03 が必要です。

---

### 3.7 MLD (AT-FL-13)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6 マルチキャスト」 / 「MLD」

IPv6 のマルチキャストグループメンバーを管理するためのプロトコル、MLD (Multicast Listener Discovery) に対応しました。本機能は IGMP の IPv6 版に相当するもので、通常マルチキャスト経路制御プロトコル PIM-SM (PIM6-SM) と併せて使用します。ご使用には IPv6 のフィーチャーライセンス AT-FL-13 が必要です。

---

### 3.8 PIM6-SM (AT-FL-13)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6 マルチキャスト」 / 「PIM」

IPv6 用のマルチキャスト経路制御プロトコルとして PIM-SM (Protocol Independent Multicast - Sparse Mode) に対応しました。アドレス体系が異なることと、モジュール名が PIM6 であることを除けば、IPv4 用の PIM-SM (AT-FL-03) とほぼ同じ要領で設定が可能です (本製品では、IPv4 用の PIM モジュールと区別するため、IPv6 用の PIM モジュールを PIM6 と呼んでいます)。ご使用には IPv6 のフィーチャーライセンス AT-FL-13 が必要です。なお、IPv6 用の PIM-DM (PIM6-DM) は現在未サポートです。

---

## 4 本バージョンで仕様変更された機能

ソフトウェアバージョン 2.5.3 pl04 から 2.5.3 pl06 へのバージョンアップにおいて、以下の仕様変更が行われました。各機能の詳細については、「CentreCOM 8724XL/8748XL コマンドリファレンス 2.5」(Rev.D) をご覧ください。

---

### 4.1 SET PIM コマンド PRUNEHOLDTIME パラメーターのデフォルト値変更

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「PIM」

SET PIM コマンドの PRUNEHOLDTIME パラメーターのデフォルト値が 60 秒から 210 秒に変更されました。

## 5 本バージョンで修正された項目

---

ソフトウェアバージョン 2.5.3 pl04 から 2.5.3 pl06 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 5.1 テキストエディター（EDIT コマンド）で特定の操作を行った場合にシステムがリポートすることがありましたが、これを修正しました。
- 5.2 SET LOADER コマンドの HTTPPROXY パラメーターが機能しませんでした。これを修正しました。
- 5.3 SHOW INTERFACE コマンドの COUNTERS オプションで表示される MIB-II カウンターの ifInDiscards、ifOutDiscards、ifOutErrors が正しくカウントアップされませんでした。これを修正しました。
- 5.4 ブリッジ MIB の dot1dStpPriority、dot1dStpBridgeMaxAge、dot1dStpBridgeHelloTime、dot1dStpBridgeForwardDelay に値を設定できませんでしたが、これを修正しました。
- 5.5 RMON MIB の etherHistoryIntervalStart が historyControllInterval の間隔で更新されませんでした。これを修正しました。
- 5.6 DISABLE SWITCH PORT コマンドでスイッチポートをディセーブルに設定した後、設定を保存しシステムを再起動すると、該当スイッチポートの所属する IP インターフェースがリンクアップしたままの状態になることがありましたが、これを修正しました。
- 5.7 ポートセキュリティ機能において、ロックされたポートのケーブルを抜くと、ロックが解除されてしまうことがありましたが、これを修正しました。
- 5.8 8748XL において、PROTECTED オプション付きで作成した VLAN に IP アドレスを設定した場合、SHOW SWITCH FDB コマンドを実行すると、スイッチ自身の MAC アドレスを持つスタティックエントリが表示されていましたが、これを修正しました。
- 5.9 ハードウェア IP フィルターにおいて、コマンドラインから TYPE パラメーター（L3 プロトコルタイプ）を条件とするフィルターエントリを作成した場合（例：ADD SWITCH L3FILTER=1 ENTRY TYPE=0806 ACTION=SEND COS）、まれに正しく動作しないことがありましたが、これを修正しました。
- 5.10 ADD/SET IP ROUTE FILTER コマンドの PROTOCOL パラメーターに無効なオプション STATIC と INTERFACE を指定できていましたが、これを修正しました。
- 5.11 ADD/SET IP ROUTE FILTER コマンドの PROTOCOL パラメーターに ANY を指定した場合、IP ルートフィルターの適用対象外である BGP 経路にもフィルターが適用されていましたが、これを修正しました。
- 5.12 PIM-DM（AT-FL-03）において、本製品が Assert Loser のとき、Prune Limit Timer 満了後に上流ルーターからマルチキャストパケットを受信しても Prune メッセージを送

信しないため、Assert Winner との間で Assert メッセージのやりとりが頻繁に発生していましたが、これを修正しました。

- 5.13 PIM-DM、PIM-SM (AT-FL-03) において、システム再起動後、Triggered\_Hello\_Delay 時間内に Hello メッセージを送信しないことがありましたが、これを修正しました。
- 5.14 PIM-DM (AT-FL-03) において、Assert Loser から Prune メッセージを受信しても Prune Ack を返しませんでしたが、これを修正しました。
- 5.15 PIM-SM (AT-FL-03) において、Join 中に上流ルーターの Generation ID が変更された場合、隣接関係の確立前 (Hello メッセージの送信前) に Join メッセージを再送してしまうため Join に失敗し、結果として、次の Join メッセージを送信するタイミングまでマルチキャストトラフィックを受信できなくなっていました。これを修正しました。
- 5.16 PIM-SM (AT-FL-03) において、本製品が RP のとき、受信者側のルーターから (S,G,RP) Prune メッセージを受信しても、マルチキャストトラフィックの送信を停止しませんでした。これを修正しました。
- 5.17 ファイアウォール (AT-FL-02) において、PUBLIC 側でマルチキャストパケットを破棄した場合、「Dir=OUT」で Deny イベントが記録されていましたが、正しく「Dir=IN」で記録されるよう修正しました。
- 5.18 ファイアウォール (AT-FL-02) において、PUBLIC 側に PROTOCOL=ALL を指定したスタンダード NAT ルールを設定すると、ICMP\_FORWARDING が無効であっても PUBLIC 側からの ICMP パケットを PRIVATE 側に転送していましたが、これを修正しました。
- 5.19 ファイアウォール (AT-FL-02) において、PUBLIC 側にリバース NAT ルールを設定する場合、ADD FIREWALL POLICY RULE コマンドの GBLREMOTEIP パラメーターに (本来はできないはずの) 複数アドレスの範囲指定が可能になっていましたが、これを修正しました。
- 5.20 ファイアウォール (AT-FL-02) において、インターフェース NAT またはルール NAT を使用している場合、フラグメントパケットを透過するように設定しても、再構成後の IP データサイズ (L4 パケットサイズ) が 1780 Byte を超えるパケットが IPSPOOF アタックと認識され、通信ができませんでした。これを修正しました。
- 5.21 ファイアウォール (AT-FL-02) において、TCP セッションの終了時に TCP RST パケットを返信することがありましたが、これを修正しました。
- 5.22 DHCP サーバー機能において、MacOS X など一部の OS を搭載したコンピューターがスリープ状態から復帰するときに IP アドレスを取得できない場合がありましたが、これを修正しました。


5.23 DHCP サーバー機能において、リース延長要求の受信時に ARP エントリーを自動作成せず、ARP Request パケットを送出していましたが、これを修正しました。

5.24 DHCP サーバー機能において、静的割り当てエントリーが存在する DHCP レンジ内のアドレス割り当てが行われなくなることがありましたが、これを修正しました。

## 6 本バージョンでの制限事項

ソフトウェアバージョン 2.5.3 pl06 には、以下の制限事項があります。


### 6.1 ログについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」

DESTINATION=NVS のログ出力先定義において、MESSAGES パラメーター（保存するメッセージの最大数）に 92 以上の値を指定した場合、NVS には指定値に満たない数しかメッセージが保存されません。

### 6.2 SNMP MIB オブジェクトについて

 **参照** 「取扱説明書」 79～81 ページ

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

SNMP の MIB オブジェクトについて、以下のような制限があります。

- MIB-II の ifInErrors、イーサネット MIB の dot3StatsFrameTooLongs が正しくカウントアップされません。
- ブロードキャスト受信時に、VLAN インターフェースの ifInDiscards (MIB-II) がカウントされます。

### 6.3 NTP について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「NTP」


本製品のシステムクロックと NTP サーバーのクロックの間に 34 年 9 日 10 時間以上の差がある場合、本製品の NTP クライアントは NTP サーバーに同期できません。

### 6.4 SET TTY コマンドの PAGE パラメーターについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ターミナルサービス」

SET TTY コマンドの PAGE パラメーターに OFF を指定した場合、この設定変更を CREATE CONFIG コマンドでファイルに正しく保存できません。

### 6.5 フローコントロールについて


 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

DISABLE SWITCH PORT FLOW コマンドでフローコントロールを無効にした後、CREATE CONFIG コマンドで設定を保存し、SET CONFIG コマンドで保存したファイルを起動時設定ファイルに指定すると、システム再起動時にエラーが表示され、フローコントロールが無効に

なりません。設定ファイルを EDIT コマンドで開き、「flow=jamming,pause」の部分を「flow=pause」に修正するか、再起動トリガーを使用して対処してください。

---


## 6.6 ポートランキングについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

トランクポートからパケットを送出しているとき、LINK/ACT (L/A) LED が点滅しません。

---


## 6.7 ポートミラーリングについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

- 本製品 (CPU) が送信するパケットは、ソースポートがタグ付き・タグなしのどちらであっても、タグ付きでミラーポートから出力されます。
- システム再起動後にソースポートをタグ付きに設定した場合、同ポートでタグなしパケットを受信すると、タグ付きでミラーポートから出力されます。

---


## 6.8 ポートセキュリティについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

- ポートセキュリティがオンのポートで受信したパケットの VLAN ID が、ポートの所属 VLAN と一致しない場合でも、アドレスを FDB に登録します。
- ポートセキュリティがオンのポートが、ある VLAN にタグ付きポートとして所属している場合、その VLAN から同ポートを削除すると、同ポートが所属する他の VLAN の FDB スタティックエントリも削除されます。
- ポートセキュリティがオンのポートにおいて、送信元 MAC アドレスがブロードキャストがマルチキャストのパケットを受信すると、このアドレスを FDB に登録します。ただし、通信には影響ありません。

---

## 6.9 ポート帯域制限機能について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

- スイッチポートの送信レート上限値 (EGRESSLIMIT) 設定と QoS 機能を併用している場合、異なるユーザープライオリティーを持つ長さ 1522 Byte のパケットを 3 つ以上のポートから受信した場合、ユーザープライオリティーが無視され QoS が機能しません。
- タグなしポートに 1000Kbps 未満の受信レート上限値 (INGRESSLIMIT) を設定している場合、同ポートからタグ付きポートに転送されたパケットが正しく送信されません。これを回避するには、受信レート上限値を 1000Kbps 以上に設定してください。

---

## 6.10 スパニングツリープロトコルについて

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「スパニングツリープロトコル」

スパニングツリープロトコル有効時、フォワーディング状態のポートに対して DISABLE SWITCH PORT コマンドを実行し、通信復旧後に再度 ENABLE SWITCH PORT コマンドを実行すると、通信が復旧しなくなります。フォワーディング状態のポートに対して DISABLE SWITCH PORT コマンドを実行しないでください。

---

## 6.11 ハードウェア IP フィルターについて

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ハードウェア IP フィルター」

- 8748XL では、ポート 25 ~ 48 とポート 50 で受信したパケットに対して、ハードウェア IP フィルターの SENDNONUNICASTTOPORT、SENDEPORT アクションが機能しません。
- SET SWITCH L3FILTER ENTRY コマンドの実行時、変更したエントリーと既存のエントリーの間に矛盾が生じた場合、変更したエントリーが無条件に削除されます。SET SWITCH L3FILTER ENTRY コマンド実行時に「Error (3087288): Switch Operation failed.」と表示されたときは、SHOW SWITCH L3FILTER ENTRY コマンドで変更したエントリーが削除されていないか確認し、削除されていた場合は ADD SWITCH L3FILTER ENTRY コマンドで再度追加してください。
- フレームタイプ 802.3 raw の IPX パケットにマッチさせるため、DSAP / SSAP = 0xFFFF の条件を持つフィルターエントリーを作成した場合、このエントリーはフレームタイプ Ethernet 2 の IPX パケットにもマッチしてしまいます。
- EPORT パラメーターを指定した場合、フィルター対象パケットの終点 IP アドレスが L3 テーブルに登録されていないと、NODROP アクションが機能しません。L3 テーブルに登録されているときは正しく動作します。

---

## 6.12 PPPoE の認証について

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「PPP」 / 「概要」

PPPoE クライアントの設定において PPP パスワードを間違えた場合、システム再起動後、試行を繰り返してしまいます。

---

## 6.13 ICMP メッセージについて

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

ICMP Host Unreachable メッセージの送信に時間がかかることがあります。



---

## 6.14 TRACE コマンドについて

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「概要」

TRACE コマンドの実行完了前に次の TRACE を実行すると、本製品がレポートすることがあります。最初の TRACE が完了するのを待つか、STOP TRACE コマンドで最初の TRACE を中断してから次の TRACE を実行してください。

---

## 6.15 IP 統計情報の表示について

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「IP インターフェース」

- ファイアウォール (AT-FL-02) 有効時、SHOW IP INTERFACE COUNTER コマンドで表示される受信パケットカウンター (ifInPkts, ifInBcastPkts, ifInUcastPkts, ifInDiscards) に、実際の受信パケット数の 2 倍の値が表示されます。
- ICMP アドレスマスク応答メッセージ受信時に、inAddrMaskReps カウンターがカウントされません。

---

## 6.16 ディレクティッドブロードキャストアドレス宛のパケットについて

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「IP インターフェース」

- 異なるネットワークからディレクティッドブロードキャストパケットを受信した場合、本製品が返す Reply パケットの送信元 IP アドレスに、受信インターフェースの IP アドレスがセットされず、送信元にもっとも近いインターフェース (パケットを実際に送り出すインターフェース) の IP アドレスがセットされます。
- IP インターフェースに対して、クラス標準でないネットマスクを設定している場合、標準マスク時のディレクティッドブロードキャストアドレス宛パケットを正しくルーティングできません。
- ディレクティッドブロードキャストフィルタリング有効時 (デフォルト有効)、ディレクティッドブロードキャストパケットを連続して受信すると、CPU 負荷率が上昇することがあります。

---

## 6.17 RIP について

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (RIP)」

ADD IP ROUTE コマンドで設定されたネクストホップルーターが属するインターフェースから、スタティックまたは OSPF 経路情報が RIP で正しく通知されません。

---

## 6.18 OSPF について

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (OSPF)」

- ASBR から受信した AS 外部経路をルーティングテーブルに反映しないことがあります。このような場合は、RESET OSPF コマンドを実行してください。

- ABRとして動作する本製品にスタブエリアを設定した場合、設定保存後システムを再起動すると、スタブエリアにデフォルトルートを通知しなくなります。

---


### 6.19 IP ルートフィルタについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御フィルタ」

IP ルートフィルタで OSPF 経路をフィルタリングする場合、フィルタリング対象の経路が隣接ルーターの LSDB にすでに登録されていると、その隣接ルーターと隣接関係を確立することができません。

---


### 6.20 DNS サーバアドレスの動的取得について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「名前解決」

ADD IP DNS コマンドの INTERFACE パラメーターで、DNS サーバアドレスを DHCP で動的に取得するよう設定していないにもかかわらず、DNS サーバアドレスが動的に取得されます。

---

### 6.21 DNS キャッシュについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「名前解決」

DNS キャッシュ機能のキャッシュサイズを 1 に設定した場合、最初のキャッシュエントリーがエージングも上書きもされずに残り続けます。キャッシュサイズを 1 に設定しないでください。

---

### 6.22 ソフトウェア IP フィルタについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「ソフトウェア IP フィルタ」

- ADD/SET IP FILTER コマンドで OPTIONS パラメーターを指定した場合、フィルタが正しく動作しません。
- 1 つの IP フィルタに対して複数のエントリーを作成した場合、パケットが 2 つ目以降のエントリーにマッチした場合のパフォーマンスは、1 つ目のエントリーにマッチした場合よりも低くなります。
- 本製品が送信するパケット (PING コマンド実行により送信される ICMP パケットなど) に対してはポリシーフィルタが機能しません。本製品がルーティングする通常のパケットに対しては正しく機能します。

---


### 6.23 マルチホーミングと UDP ブロードキャストヘルパーの併用について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「UDP ブロードキャストヘルパー」

マルチホーミングした IP インターフェース上で UDP ブロードキャストヘルパーを使用する場合、後から設定した論理インターフェースがナチュラルサブネットでない (ネットマスクがクラス標準マスクでない) と、この論理インターフェースでパケットを受信したときに UDP ブロードキャストヘルパーが機能しません。UDP ブロードキャストヘルパーを使用する論理インターフェースは一番最初に設定するようにしてください。

---

## 6.24 ICMPv6 メッセージについて (AT-FL-13)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」

- ICMPv6 Address Unreachable または No Route To Destination メッセージの送信に時間がかかることがあります。
- Path MTU Discovery が有効のとき、本製品が送信する ICMPv6 Packet Too Big メッセージ内の MTU フィールドに正しい値がセットされないことがあります。

---

## 6.25 IPv6 インターフェースの設定について (AT-FL-13)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」 / 「IPv6 インターフェース」

6to4 プレフィックスを持つアドレス (2002: で始まる 6to4 用のアドレス) を、実インターフェースに割り当てることができません。

---

## 6.26 PIM-DM (AT-FL-03) について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「PIM」

- インターフェースがダウンしたことにより IP の経路表からエントリーが削除されても、PIM の経路表からはエントリーが削除されません。
- Prune 状態のインターフェースが Graft しても、経路エントリーの Prune limit time が 0 にリセットされません。これは SHOW PIM コマンドの表示だけの問題であり、マルチキャストパケットの転送は正しく行われます。

---

## 6.27 PIM-SM (AT-FL-03) について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「PIM」

- インターフェースがダウンしたことにより IP の経路表からエントリーが削除されても、PIM の経路表からはエントリーが削除されません。
- 本製品が BSR に選出されているとき、優先度が同一で、なおかつ、より大きな IP アドレスを持つ C-BSR からメッセージを受信しても、BSR の切り替えが行われません。このような場合は、設定をファイルに保存した後、システムを再起動してください。

---

## 6.28 PIM6-SM (AT-FL-13) について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6 マルチキャスト」 / 「PIM」

- Assert メッセージが送信される状況下においてシステムを再起動すると、再起動後 Assert メッセージを送信しなくなることがあります。
- SET PIM6 コマンドの BSMINTERVAL パラメーターでブートストラップメッセージの送信間隔を変更しても、ブートストラップメッセージ内の Holdtime に反映されません。

- 本製品が BSR として動作しているとき、隣接ルーターから Hello メッセージを受信しても、その隣接ルーターに対して、ブートストラップメッセージをユニキャストで送信しません。

---


### 6.29 ファイアウォール (AT-FL-02) について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」

- PUBLIC 側で受信したパケットを破棄した場合、SHOW FIREWALL POLICY コマンドの COUNTER オプションで表示される Total Packets Received カウンターが 2 ずつカウントされます。
- PRIVATE 側に設定した Deny ルールでパケットを破棄した場合、SHOW FIREWALL POLICY コマンドの COUNTER オプションで表示される Number Dropped Packets カウンターがカウントされません。
- 不正な Ack 番号を持つ TCP セグメントに対しても Ack を返します。

---

### 6.30 VRRP について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「VRRP」

- CREATE VRRP コマンドの PORTMONITORING を ON に設定した場合、VR に所属するすべてのインターフェースの PRIORITY が 0 になると、短期間に大量の VRRP パケットが送出されてしまいます。
- CREATE VRRP コマンドの PORTMONITORING を ON に設定した場合、不要なメッセージがログに記録されることがあります。

---

### 6.31 DHCP サーバー機能について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「DHCP サーバー」

DHCP サーバー機能とローカル IP インターフェース (SET IP LOCAL コマンド) を併用した場合、DHCP OFFER メッセージを再送するときにローカル IP インターフェースの IP を使用せず、パケットを送出するインターフェースの IP を始点 IP アドレスとして使用します。

---

## 7 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正

同梱の取扱説明書、および CD-ROM に収録されている「CentreCOM 8724XL/8748XL コマンドリファレンス 2.5 (Rev.D)」の補足事項です。

---

### 7.1 HTTP サーバー (サポート対象外) について

本製品はデフォルトで HTTP サーバー (サポート対象外) が有効になっているため、IP 有効時は TCP ポート 80 番がオープンしています。セキュリティを重視する場合は、DISABLE HTTP SERVER コマンドを実行して、HTTP サーバーを無効にしてください。

---

## 7.2 送信元アドレスがマルチキャストアドレスのフレームについて

受信した Ethernet フレームの送信元アドレスがマルチキャストアドレスだった場合、このフレームは転送されずに破棄されます。

---

## 7.3 スイッチポートの統計カウンターについて (8748XL のみ)

8748XL では、ポートグループ「1～24、49」と「25～48、50」をまたぐパケットは、SHOW SWITCH PORT COUNTER コマンドで表示される ifOutUcastPkts、ifOutErrors、DropEvents カウンターにカウントされません。


---

## 7.4 1000Mbps ポートのフラッシングレートについて

リンクしている 10/100Mbps ポートの数によって、拡張モジュールの 1000Mbps ポートのブロードキャスト、マルチキャストの転送率が下がる場合があります。

---


## 7.5 ポート帯域制限機能の受信レート上限値と TCP 通信のスループットについて

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「ポート」](#)

スイッチポートに受信レート上限値 (INGRESSLIMIT) を設定している場合、同ポートを経由した TCP の通信では、TCP データのスループットが設定した上限値よりも低くなります (低下の度合いは通信状況に依存します)。これは TCP プロトコルの特性として、帯域制限機能によって破棄されたパケットの再送処理などが発生するためです。また、TCP 以外においても、同様の再送処理を行うプロトコルではこの現象が発生する可能性があります。

---


## 7.6 フォワーディングデータベースについて

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「フォワーディングデータベース」](#)

1 回目のエージアウトでは、すべてのダイナミックエントリーがフォワーディングデータベースから削除されない場合があります。ただし、2 回目以降のエージアウトではすべてのダイナミックエントリーが削除されます。

---

## 7.7 ハードウェア IP フィルターについて

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「ハードウェア IP フィルター」](#)

IPv6 ルーティングを有効にしている場合、ルーティング対象の IPv6 パケットに対して、EtherType = 0x86DD (IPv6) の条件を持つハードウェア IP フィルターエントリーがマッチしません。ルーティング対象の IPv6 パケットをフィルタリングするには、IPv6 フィルターを使用してください。ルーティング対象でない (スイッチングされる) IPv6 パケットには、前述のハードウェア IP フィルターがマッチします。

---

## 7.8 IP マルチキャストのハードウェア処理 (AT-FL-03) について

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP マルチキャスト」](#) / [「概要」](#)

スイッチ間をタグ付きポートで接続している場合、タグ付きポートを通過する IP マルチキャストパケットは、最初に ADD IP INTERFACE コマンドを実行した VLAN の VID を持つものだけがハードウェア処理の対象となり、他の VID を持つパケットはソフトウェア処理となります。

す。ソフトウェア処理される場合のパフォーマンスは「ワイヤースピード ÷ VLAN 数」となります。タグ VLAN 環境で IP マルチキャストを使用するときは、タグ付きポートに割り当てられる VLAN 数を 3 つまでにすることをおすすめします。

## 7.9 DVMRP (AT-FL-03) について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「DVMRP」

本製品の DVMRP 実装は、Internet Draft の「Appendix C」（古い DVMRP 実装との相互運用性に関する項目）には対応していません。

## 8 未サポートコマンド（機能）

以下のコマンド（機能）はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

- 以下の機能別キーワードを含む全コマンド

ENABLE の後に [?] キーを押すと表示される機能別キーワードです。

ACC, APPLTALK, BRI, CLASSIFIER, ETH, FRAMERELAY, GARP, GRE, GUI, IPSEC, IPX, ISAKMP, ISDN, L2TP, LAPB, LAPD, LDAP, LOADBALANCER, LB, LPD, MIOX, PKI, PRI, Q931, RADIUS, RSVP, SA, SERVICE, SSL, STAR, STARTUP, STT, SYN, TPAD, TACACS, VLANRELAY, X25C, X25T, TDM, DS3, VOIP

- 以下のコマンド（パラメーター）

太字はコマンド名、細字は該当コマンドのパラメーター名です。下線が引いてあるコマンド（パラメーター）は「CentreCOM 8724XL/8748XL コマンドリファレンス 2.5 (Rev.D)」に記述があります。

**COPY**

**DUMP**

**START PKT**

**STOP PKT**

**SET PKT**

**TRACE** [ADDRONLY]

**PING** [APPLEADDR ; IPXADDR ; OSIADDRESS] [SAPPLEADDRESS ; SIPXADDRESS ; SOSIADDRESS]

**SET PING** [APPLEADDR ; IPXADDR ; OSIADDRESS] [SAPPLEADDRESS ; SIPXADDRESS ; SOSIADDRESS]

**SHOW SWITCH SOCK**

**SHOW SWITCH MEMORY**

**SHOW SWITCH SWTABLE**

**SET SWITCH SOCK**

**SET SWITCH PORT** [MULTICASTMODE] [SPEED={10MHAUTO ; 10MFAUTO ; 100MHAUTO ; 100MFAUTO ; 1000MHAUTO ; 1000MFAUTO ; 1000MHALF}]

**CREATE/DESTROY IP POOL**

SHOW IP POOL  
ADD/DELETE/SET IP FILTER PRIORITY  
ADD/DELETE IP EGP  
ENABLE/DISABLE IP EGP  
SHOW IP EGP  
ADD/DELETE IP SA  
SHOW IP SA  
SET IP ARP [DLC] [CIRCUIT]  
SET IP FLOW  
SHOW IP FLOW  
SHOW IP CACHE  
SHOW IP ROUTE [CACHE]  
SHOW IP ROUTE TEMPLATE  
SHOW IP ROUTE MULTICAST  
ENABLE/DISABLE IP FOFILTER  
ENABLE/DISABLE IP MULTICASTSWITCHING  
ENABLE/DISABLE IP SRCROUTE

ADD/DELETE DVMRP [DLC]  
ADD/DELETE DVMRP INTERFACE [DLC]  
SET DVMRP [DLC]  
SET DVMRP INTERFACE [DLC]

ADD/DELETE IPV6 FILTER [PRIORITY]  
ADD/DELETE IPV6 INTERFACE [PRIORITYFILTER]  
SET IPV6 FILTER [PRIORITY]  
SET IPV6 INTERFACE [PRIORITYFILTER]  
ENABLE/DISABLE IPV6 FLOW  
ADD/SET IPV6 INTERFACE [TYPE=ANYCAST]

CREATE FIREWALL POLICY DYNAMIC  
ADD/DELETE FIREWALL POLICY DYNAMIC  
ADD/DELETE FIREWALL POLICY PROXY  
ADD/DELETE FIREWALL POLICY SPAMSOURCE  
ADD/DELETE FIREWALL POLICY HTTPFILTER  
ADD/DELETE FIREWALL POLICY RULE [LIST=RADIUS]  
SET FIREWALL POLICY SMTPDOMAIN  
SET FIREWALL POLICY ATTACK  
ENABLE/DISABLE FIREWALL POLICY SMTPRELAY  
ENABLE/DISABLE FIREWALL POLICY HTTPCOOKIES

CREATE QOS  
ADD/DELETE QOS  
SET QOS PORT  
SET QOS POLICY  
SET QOS TRAFFICCLASS  
SET QOS FLOWGROUP

SHOW QOS POLICY  
SHOW QOS TRAFFICCLASS  
SHOW QOS FLOWGROUP

CREATE/DESTROY PPP [AUTHMODE] [BAPMODE] [CBMODE] [CBDELAY]  
[COPY] [DEBUGMAXBYTES] [DESCRIPTION] [FRAGMENT]  
[FRAGOVERHEAD] [LOGIN] [MAXLINKS] [MRU] [NULLFRAGTIMER]  
[NUMBER] [TYPE]

ADD/DELETE PPP [AUTHENTICATION] [CBDELAY] [CBMODE] [CBNUMBER]  
[CBOperation] [COMPALGORITHM] [COMPRESSION] [CONFIGURE]  
[MODEM] [NUMBER] [PREDCHECK] [RESTART] [STACHECK] [TERMINATE]  
[TYPE]

ADD/DELETE/SET PPP ACSERVICE  
ADD/DELETE/SET PPP TEMPLATE  
ENABLE/DISABLE PPP TEMPLATE  
ADD/DELETE PPP MAXSESSIONS  
ADD/DELETE PPP ACRADIUS  
ADD/DELETE PPP VLAN  
ENABLE/DISABLE PPP ACCESSCONCENTRATOR  
ACTIVATE PPP RXPKT

ADD/DELETE/SET PIM INTERFACE [SRCAPABLE]  
SHOW PIM [STATEREFRESH]

ADD/DELETE/SET PIM6 INTERFACE [MODE=DENSE] [SRCAPABLE]  
SHOW PIM6 [STATEREFRESH]

SET BOOTP MAXHOPS  
ENABLE/DISABLE DHCP [BOOTP]

## 9 コマンドリファレンスについて

---

最新の日本語版コマンドリファレンス「CentreCOM 8724XL/8748XL コマンドリファレンス 2.5 (J613-M6920-01 Rev.D)」は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

※バージョン「J613-M6920-01 Rev.D」は、コマンドリファレンスの全ページ（左下）に入っています。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>